

土佐日記「羽根」 (紀貫之)

①十一日。暁に船を出だして、室津を追ふ。人みなまだ寝たれば、海のありやうも見えず。ただ月を見てぞ、西東をば知りける。かかる間に、みな、夜明けて、手洗ひ、例のことどもして、昼になりぬ。

室津：現在の高知県室戸市室津。

追ふ：目指す。

例のことども：毎日の決まりになっていることなど。

②今し、羽根といふ所に来ぬ。わかき童、この所の名を聞きて、「羽根といふ所は、鳥の羽のやうにやある。」と言ふ。まだをさなき童の言なれば、人々笑ふとき、ありける女童なむ、この歌をよめる。

羽根：現在の室戸市羽根町。

昔へ人：亡くなった人。

まことにて名に聞くとこる羽ならば飛ぶがごとくに都へもがなとぞ言へる。男も女も、いかでとく京へもがなと思ふ心あれば、この歌、よしとにはあらねど、げにと思ひて、人々忘れず。

下りしときの人の数：都から土佐に下ったときの数

古歌：「北へ行く雁ぞ鳴くなる連れて

③この羽根といふ所問ふ童のついでにぞ、また昔へ人を思ひ出でて、いづれの時にか忘るる。今日はまして、母の悲しがらるることは。下りしときの人の数足らねば、古歌に「数は足らずぞ帰るべらなる」といふことを思ひ出でて、人のよめる、

来し数は足らずぞ帰るべらなる」(春になって北国へ帰って行く雁の声が聞こえるようだ、

去年の秋に一緒にやってきた

数には足りないで帰って行く

ようである)とある。

世の中に思ひやれども子を恋ふる思ひにまさる思ひなきかなと言ひつつなむ。

と言ひつつなむ：と言いながら(船旅

を続けるのであった)。

人：貫之自身を指すと思われる。

〈予習〉

調べた語句	本文中の意味	調べた語句	本文中の意味

この文章について他のグループの人に伝えるため、左の内容を完成させよう。(現代語訳ではないので、内容が分かるように説明できていれば良い)

①十一日。明け方に室津を目指す。海の様子も見えない。ただ月を見て西東を知る。こうしている間に、夜が明けて昼になった。

②羽根という所に来た時、小さい子どもが( )  
その子どもが( )  
歌を詠んだ。その歌は男も女も( )  
( )ので、( )  
( )と和

③この子どもをきつかけに、( )  
( )。今日はまして、( )  
( )。

( )。古歌を思い出して(貫之自身を指すと思われる)「ある人」が( )  
( )。都から土佐へ下ったときの( )  
( )と詠んだ。